APNIC 62
フェローシップ体験談

2026年11月

東京大学　江利口 晴矢

目次

1. 自己紹介
2. 参加目的
3. セッションのご紹介
4. 参加者との交流について
5. 日本のインターネットに対する考察
6. 今後の展望

自己紹介

江利口 晴矢（えりぐち せいや）

所属

東京大学 工学部 電子情報工学科 4年
江崎・落合研究室

研究キーワード

無線LAN・マルチパス・計測

興味分野

インターネット・サイバーセキュリティ



Gateway of India にて

（世界中とつながるのが面白い！機器を触ると楽しい！）

参加目的

- インターネットの運用について技術面を超えて知る
- IPv6移行を実現するための現在地や技術動向を知る
- インドのインターネットについて知る
  （人口の多い国への関心）
- 国を超えた人間関係を築く
  （国際交流への関心）

なお、応募は先輩からのご紹介がきっかけ。



参加したセッション

9月8日（Day 5）

Newcomers Welcome

APNIC Opening Ceremony & Keynotes

Technical Session 1 - Internet Operations

Technical Session 2 - AI in Networks

NextGen BoF - Plot Your Path

9月9日（Day 6）

INNOG 9 Session

Routing Security SIG

IPv6 Deployment

Joint SIGs session - SIG Guidelines Review

Lightning Talks

9月10日（Day 7）

Technical Session 3 - Network Security & Standards

Open Policy Meeting 2 - Policy SIG

APNIC Member Meeting 1

APNIC Member Meeting 2

印象に残ったセッション：INNOG 9 Session

想定よりもインドに限定されない話題が多かった。

NIXIのCEO Tyagi氏の挨拶

- NIXIの接続拠点はすべてIPv6に対応
- **IPv6への関心の高さを実感**

APNIC ECのAhmed氏のインターネットレジリエンスの発表

- 海底ケーブル切断等、国外との接続が失われるとどうなるか？
- **安全保障という観点**
- **公開DNSへの依存の危険性**

印象に残ったセッション：IPv6 Deployment

参加前に最も興味があったセッション

IPv6のアドレス利用

- 地域やサービスをアドレス構造に反映するという考え方も
- 新鮮な発表だった

IPv6 Mostly Network

- IPv6への移行の現実的な方法
- IPv4が必要な端末のみにIPv4アドレスを配布
- NAT64でIPv4ホストとも通信可能

会場における IPv6 Mostly Network

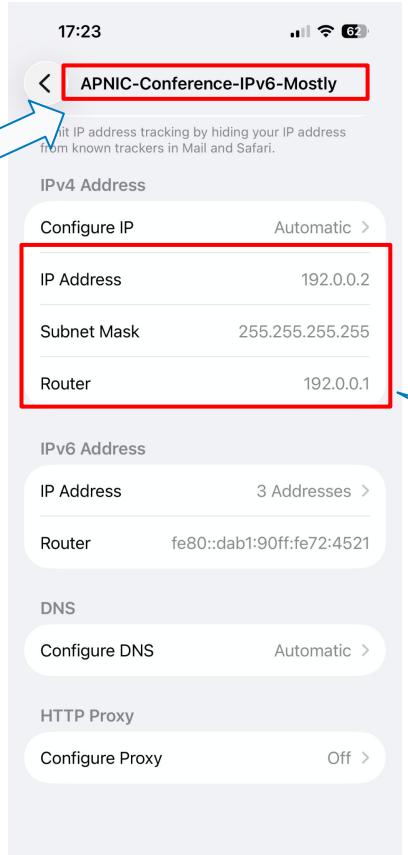
APNIC-Conference

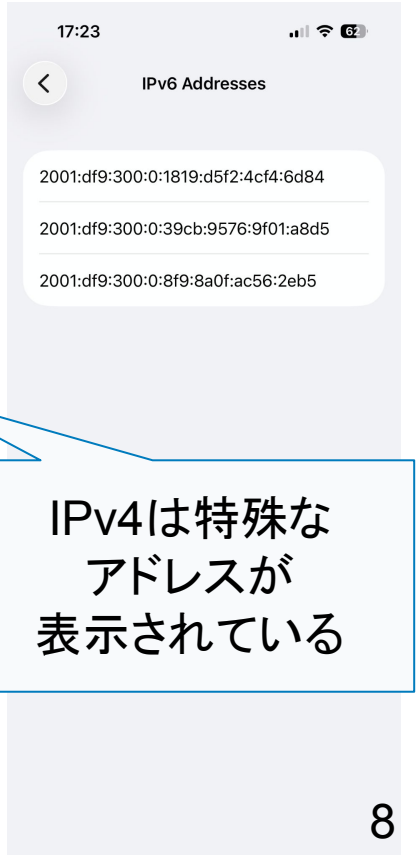
APNIC-Conference-IPv6-Mostly

の2つのSSIDが利用できた。

Q. どうして一本化しないのか？

A. IPv6 Mostlyでは不測のトラブルが起こりうるため。





IPv4は特殊な
アドレスが
表示されている

印象に残ったセッション：Open Policy Meeting 2

proposalについて提案者の発表、事務局のコメント、
質疑応答と合意形成のための投票が行われる。

- 投票は行われないこともある。十分な議論が重視されている。
- **一票の重み・責任**
  （例：Strong Opposeに投票すると理由の説明が必須）

OPM: 投票の難しさと学び

prop-164: IPv6アドレスの最小割り振りサイズを /32から/40へ縮小

自分: /32での割り振りも引き続き可能なら良さそうと賛成
会場: 反対が多い

→ 経路集約の観点・/32になっている経緯を知る必要性

prop-170: IPv6アドレスの Nibble-Boundaryでの割り振り

自分: 住所や郵便番号と対応させたいという背景の認識で反対
会場: 賛成が多い

→ 提案背景を理解できていたのか？

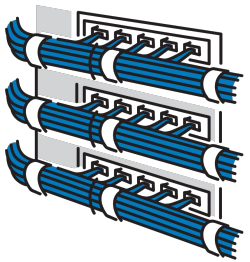
OPM: 投票の難しさと学び

- 提案内容を知っているだけでは、中身のある意見を持つことはできない。
- ポリシーは必ず技術とつながっている。運用経験に基づく議論参加が求められている。
- 今までの歴史を知っておくことも重要。

ポリシーと技術は想像以上に密接していた。
運用経験に基づいた意見を持つことを目指したい。

参加者との交流：印象に残ったお話

- 利用者対応では Awareness が大事。
- 仕事はソフトウェアエンジニアだが、インターネットに興味があるから色々な会議に参加している。
- ブータンISPでの仕事：土木工事から機器の設定まで幅広い。
- 海底ケーブルが重要。衛星通信は遅すぎる。



日本のインターネットに対する考察

日本では非常に恵まれたインターネット環境が整備されている。

発表には厳しい状況がうかがえるものも。

- インターネットがなかった地域へインターネットを導入した
- プロバイダがDNSサーバを運用せず公開DNSへ依存している
- 古い装置でのネットワーク構築

一方で、IPv6の普及の観点では独自の課題がある。



今後の展望

① IPv6 Mostly の実践

IPv4アドレスが豊富な環境こそ
IPv6を積極的に使うべきでは？

自宅や研究室で IPv6 Mostly を導入したい。
→ 検証開始

② ネットワーキング

インターネットでも技術だけでなく、
人間関係が重要。

国内のイベントに積極的に参加。

同期や友人、知人を巻き込んでインターネットに関わっていく。

参加支援プログラムについて・謝辞

渡航手配から、各種交流会、現地移動や解説など、全体を通して丁寧にサポートしていただき、安心して参加できました。

JPNICのフェローとしての参加は、充実した経験となった大きな理由だと思います。

本当にありがとうございました。



ありがとうございました